

# わかやま母親通信

第98号 2022年11月18日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内  
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w\_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は  
生命を育て  
生命を守ることをのぞみます

HP 和歌山県母親大会

## 第67回日本母親大会(10/15~16)に、14000人参加

和歌山県からも、参加者2人、要員1人が現地へ参加し、オンライン参加者を合わせて、のべ193人が参加しました。みなさん、ごくろうさまでした。いただいたご意見・ご感想は、ごく一部ですが、2~4面に掲載しています。

## 11/18(金)母連対県交渉 切実な24項目の要求で臨む

今年の県母親大会は3年ぶりに分科会を設定し、地道な要求実現運動や切実な願いを話し合うことができました。それを受けての対県交渉です。

「子どもと教育」では、コロナ禍の影響もあって学校へ行きにくい子どもたちの問題は一層深刻で、学級の定数減が早急に必要です。学校給食の無料化も切実な願いです。

「社会保障」では、今こそ医療の充実が大事な時に、ベッド数を削減する「地域医療構想」は中止してほしいと強く願うところです。公立病院の産科の充実も切実です。「くらし」では、カジノ誘致で無駄に使った多額の税金についてよくよく反省をして、県民のくらしや地道な産業への応援に使うよう強く要望したいです。「女性差別撤廃条約選択議定書」の早期批准を国へ要望したいです。

各郡市・各団体から発言をお願いします。



### 明日へ

新型コロナの感染拡大が広がり、突然学校閉鎖が決められたり、登校が再開されても感染防止にピリピリする空気が蔓延したりする中で、子どもたちの不登校が増えているという。私の孫(4年生)も、学校へ行きづらくなっている。朝からの登校が難しくなり途中から行く日が多くなっている。仕事をしている母親(娘)に替わって、祖母の私が登校に付き添う日々である。担任が「来られるときからね」「いつでも帰宅すればいい」と対応してくれているが、担任の負担を考えると申し訳なく思う。複雑な思いを持ちながら、「少しでも他の子との関わりをもっていてほしい」と願って見送る。

学校に行きづらい子ども、授業についていけない子ども、学習障害といわれる子どもたちに寄り添える学校であってほしい。ゆとりと言いつつゆとりのない教育、教職員に負担がかかりすぎる現状を改善して、少人数のクラスで誰にもわかる教育をめざしてほしい。そのためには教職員を増やして「どの子にも行き届いた教育を」と願うばかりです。M.M.

## 第67回日本母親大会 in 埼玉・群馬に参加して…分科会の感想から

### 問題別集会1「いま、平和を考える」

\*私は昔、「新聞は社会の木鐸(ぼくたく)たれ」と習った記憶がありますが、現実には、そうなってはいない。では、どうしたら…?の答えをもらいました。今まであまり言うてはこなかったけれど、そうじゃなくて、自分自身が「もの申さねば」ということを、少しずつでもしていきたいと思いました。

那賀 Y. M.

\*日本は島国で、食糧、エネルギーの自給率が低いから、日本周辺で戦争を起こさせてはならない。対立を戦争にさせない外交を政治の責任でやるべきで、戦争の準備より平和の準備をしなければならない。日本には憲法9条のブランド力があり、世界の世論を味方につけることが最大の安全保障になるという話に納得した。勇ましいことを言って人気を得る政治家たちに、私たちは黙っているのではなく声を上げること続けていかなければと思った。

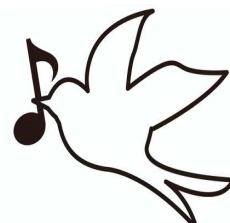
有田 I. G.

\*3人のパネラーの中味がよくわかる内容豊富でとても良かったです。改憲を阻むための大きな運動の必要性を再度考え直す機会でした。豊かで住みよい生活ができるためにも、平和が重要です。軍事費を拡大していく現政権を変えるためにガンバロウ!

西牟婁 T. U.

\*知らないことばかり聞いてびっくり。日本はアメリカに守ってもらうことばかり考えているが、実際は、戦争が始まれば、先に日本がやられ、犠牲になるなんて…。

海草 Y. Y.



\*戦争準備ではなく平和準備。世界中の国に9条があればいいのに。本当にそう思います。平和9条を大事にしたいです。

那賀 R. K.

### 問題別集会2

#### 「ジェンダー平等社会の実現」



\*3名のパネリストが、労働、憲法、社会と立場を変えて、それぞれ発言してくれたのが良かったです。社会の空気に惑わされることなく、「自分はどうか」とよく考え行動できる社会であってほしいです。そのために壁となる今の政府を変える必要があるのですね。

西牟婁 C. K.

\*今、ジェンダー問題について勉強しています。今朝からも、学校の性教育の矛盾、統一協会からの妨害について、ライトトークしていました。ぴったりと内容が合致しました。小川さんの意識の変革のお話に共感を覚えました。今、「父親の育児参加」「イクメン」などという言葉に大きなジェンダーバイアスを感じています。これからも、勉強を続けていきたいと思います。  
和歌山市 N. H.

\*小川たまかさんの話は、とても興味深いものでした。女性がちょっと声を上げると、「女のくせに偉そうに…」みたいな空気が、日本にはまだまだあるように思います。  
県役員 M. S.

### 問題別集会3「気候正義を求める」

\*武本匡弘さんの話で、海洋のここ3年の変化のすごさに危機意識を刺激されました。憲法九条こそ(戦争が最大のCO2排出の原因になることを考えると)、日本のものというより世界の機器を救う、世界の憲法にならねばならないとの話に感動。土壌が化学肥料によって減っているという印やく智也さんお話も大変なインパクトがありました。地産地消、アグリエコロジーと家族農業の維持発展がCO2削減になるということに改めて実感。全国の経験交流の実践は、まだまだしっかりした運動が育っていないという感じ。もっと地域の自覚的な運動を広げていくべきだと思った。また、再エネの名による巨大なソーラーとか風力発電の問題を真剣に考えていかなければと思うが、そういうことも取り上げてほしい。  
有田 K. Y.

\*特に印象的で新発見だったのが、いんやく智也氏のお話です。有機農業を進める、有機野菜を食べることが、CO2を減らすことにつながるというお話でした。政治的結果により、日本が遅れている有機農業を、環境のため、健康のために推進してほしいと切に願います。  
有田 オンライン参加者

## 第67回日本母親大会 in 埼玉・群馬に参加して…全体会の感想から



### ○オープニング・その他

\*笛・太鼓・踊り・歌…。楽しさがよく伝わってきました。現地だったら、もっともっ 迫力が感じられたらいいな～。  
\*舞台の“じょうもんカルタ”4畳半の広さを見たかった。ゆずり葉の詩も良かった。

\*母親大会の歴史・大切さを一段と感じ、若い人達にこの思いを伝えたいと感じた。  
\*現地のお買い物も楽しみだったので、各品物のお取り寄せなどあればうれしいです。  
\*オンライン参加併用という計画なのだから、事前にレジメが欲しかったです。

## ○記念講演：「自由を生きぬく実践知」 田中優子 元法政大学総長

\*何か難しいかな？と思ったのですが、自らが生きる現場で、実践しながら知性をみがくと言うのだから、今いろんな運動をしてきている中で、自分をしっかり見つめ進むべき方向性を見失わず、これからもみんなと一緒に成長していけたらいいのかなと思いました。ジェンダー平等へのバッシングは、統一協会と自民党が総がかりでやってきたのかと納得、生の多様性は、私自身、今一つ保守的なところがあったが、多様性を認めることが幸せな人が増えることだと学び、なるほどと合点がいきました。今自分の生活の中で何ができるか考えていきます。

和市 H. S.

\*田中優子氏の講演に目を開かされました。日常の中で、当たり前になっている諸事に、私たちは常に学習して気づき、行動することの大事、個人の人権、自分だけでなく、他の人々、周囲の人々、世界の人々に、常に目を向け進んで生きていく大切をわかりました。海草 S. Y.



\*最初は難しいかなって構えていましたが、途中から引き込まれました。やっぱり女性の講師はいいですね。本会場で見ると、画像はオンラインの方が見やすいと思いました。オンラインもいいですね。

県役員 M. N.



\*田中優子さんのお話を聞くことができ良かったです。「自民党憲法改正草案」など、今まで気にもかけていなかったのですが、一度ゆっくり読んでみたいと思いました。

ビッグ愛会場 参加者

\*「自由を生きぬく実践知」の言葉の意味は、自由を勝ち取るために実行実践しながら知性を鍛えることだと教えていただきました。生きにくくなっている今の社会で、社会のこと、世の中のことを常に考えながら、誰も取り残されない真の幸せ、自由を勝ち取っていきたくと改めて思いました。「天賦人権説」は『檻の中のライオン』講演でも聞きました。人権とは、人が生まれながらにもつ権利である。これが守られてこそ、自由があるのだと思います。

日高 M. N.

\*（大会全体について）現地に行かなくても、今日のような方法で臨場感のある迫力ある集会の様子が経験できて、時代が進んだ、便利になったなあとの思いが強く感じられます。映像は臨場感があり、きっと会場で聞くより良かったのではないかとまで思われました。

伊都會場 参加者



## 「ジェンダー平等社会」の実現をめざして・・・ベーシック学習講座② ・・・それは、平和、自由、平等、多様性が尊重され、個人の尊厳が守られる社会

誰の言葉か覚えていないが、「ジェンダーギャップ指数は、欧米に有利な調査項目で、日本には日本の男女の有様（ありよう）がある。」と言った旨の記事を、最近目にしたことがあった。「何を言いたい？」と引っかかりを感じたことを覚えている。

明治維新によって始まった近代国家の日本は、絶対主義的天皇制の下で、封建的な家父長的家制度を残し、家族単位の支配制度を積極的に引き継いだ。明治憲法とそれに基づく民法・刑法で、新たに確立させたのである。その家の絶対的権力は家長たる夫（主人）にあり、妻（家内）は勿論、子どももその家に帰属させられた。妻には、財産権も結婚・離婚の自由もなく、我が子への教育も家長の意を前提として負わされたものである。さらに、妻に重い姦通罪が刑法に明記されてもいた。戦前の時代を描いたドラマなどで、こうした家族の様子が描かれたりするが、現実はもっと女性に厳しいものであったらと思う。（注1）

1945年8月の敗戦で日本のあらゆるものが壊れ去った後に、日本国憲法が制定された。日本で初めて男女平等・男女同権がこの最高法規に明文化され（24条）、結婚の自由と対等な夫婦関係も明記された（25条）。初めて男性と同様の人間として認められたのだと、喜びの声を上げた女性も多かったと思う。

そして、焼土の中で戦後初の国際女性デーが開催された。女性団体がいくつも結成され、堂々と政治的発言をし、生活や権利の向上を求めて活動が全国的に広がっていった。中でも、結婚した女性が夫の許可ではなく自分の意志で社会に出て、平和、くらし、子どもを守るために声を上げた



第1回日本母親大会 東京・豊島公会堂 1955年

母親大会の社会的意義は大きかったと思うのである。同時に、数多くの労働組合が結成された。専門部として女性部がつくられ、女性の賃金や働く環境や働き続けられる諸要求が話し合われ、一つ一つ制度として実現させていったのである。育児休業制度や介護休暇制度はそうして制度化されたものである。弁護士の角田由紀子氏は、「女性の権利



で与えられたものは何一つない！ 闘って勝ち得たものである。」と述べているが、まさにその通りでありこれからもそうであると確信する。

そうした民主主義運動・女性運動は、野火のように全国各地に広がっていった。1980～90年代に一つの頂点を迎えた感があった。その角田由紀子弁護士 時のジェンダー平等度を調査してあれば、欧米諸国に最も近づいていたかもしれないとさえ思うのである。


しかし、その後の「経済的先進国」日本が進んだ方向は、「ジェンダー平等」への流れを推進するのではなく、むしろ「格差」を温存する道であったと考えられる。

（注1）戦前の夫婦関係について考えるとき、しばしば思い浮かぶのが、詩人 金子みすゞの

(前ページより)生涯である。結婚したみすゞは、夫から詩を書くことを禁じられ、夫婦生活は破局する。そして、せめて幼い娘を引き取りたいということさえも拒否され、ひたすらそのことを願いつつ短い一生を終えている。

戦後、みすゞが書き残した作品が見い出され高い評価を受けているが、女として家制度に束縛されても、心の中まで縛られず、自由な想像力にあふれていたことが作品から伝わってくる。次の詩の「みんなちがって、みんないい」が胸を打つ。

2023年第68回日本母親大会は、金子みすゞの生まれ故郷 山口県で開催されます。



私と小鳥と鈴と  
金子 みすゞ

私が両手をひろげても  
お空はちっとも飛べないが  
飛べる小鳥は私のように  
地面(じべた)を速くは走れない  
私が体をゆすっても  
きれいな音は出ないけど  
あの鳴る鈴は私のように  
たくさんな唄は知らないよ  
鈴と、小鳥と、それから私、  
みんなちがって、みんないい

和歌山県学習協機関紙より転載(文責 N.)

## 日本の食料自給率38%(和歌山県は、わずか28%)

松坂みち子さん(新婦人和市支部)の手作りニュースから抜粋しました

日本農業は、自由貿易体制とグローバリズムの下で犠牲にされてきました。農業の企業化や大規模化、競争力強化などを市場原理にゆだねる新自由主義的な農政が、食料自給率の低下、農業危機をうみだしました。5年前と比較すると、農業経営体20万減、農業従事者36万6千人減、65歳以上が約70%、40歳未満はわずか4%です。

新自由主義の農政が、「農業だけでは生活できない」という現実をつくりだし、農業から働く人を追い出した結果です。

農業が大規模化すると、手間ひまをかけないため生産性が下がります。大型トラクターや大型ハウスでは多くの化石燃料が使われ、環境に負荷をかけています。今、20世紀型、新自由主義方の農業は、「持続可能でない」という意識が世界中に広がり、農政の見直しが始まっています。水や土地、化石燃料など資源の25%しか使っていない小規模農業が食糧生産の70%を担い、石油資源に依存している大規模農業は、資源の75%を使いながら70%の食料しか作っていません。EUは21世紀初頭から、農業が果たす環境保全や防災機能を重視し、価格・所得保障で小規模・家族経営を推進してきました。

日本も、EUのように、農業の役割、後継者づくりを真剣に考える必要があります。